



正門の桜の下で

文学部 日本文学科 教授 大場 朗

今年も本学正門の桜が見事に咲いた。その下に立って見上げると形容しがたい不思議な思いにとらわれる。
**願わくは 花の下にて 春死なん
そのきさらぎの もちづきのころ**

(西行)

桜の花の下にいと、研究していることもあって、すぐにこの一首が浮かんでくる。

この歌はあまりにも有名なので、知っている人も多いのではないと思う。不思議と心を引きつけるあやしげな魅力をもつ歌であるが、どうもその魅力は満開の桜と満月の下の死（耽美的な死への希求）にあるように思われる。しかし、それは近代的な解釈に傾斜したとらえ方のような。では、この歌の本旨はどこにあったのだろうか。

西行研究家として著名な学者で

あった故山田昭全博士は、長年の考察の結果、「西行が 2 月 15 日に鶴林（沙羅双樹下の釈迦の涅槃）に思いをはせた」歌ではないかと指摘されて、この歌の背後に「釈迦涅槃図」の影響を読み取られたのであった（『西行の和歌と仏教』明治書院昭和 62 年）。こうした指摘を踏まえると、満開の桜と満月（2 月 15 日）のもとで死を迎えたいという「耽美的な死への希求」のみではなく、西行には教主釈迦に対する熱烈な信仰もあったことが知られるのである。もしかすると、西行の思いの中心は後者にあつて、それがこの一首を詠じさせたのではないかとさえ思えてくる。

和歌は三十一文字で短い。それを読者が読む。そうすると、それらの言葉は羽の生えた文字となって、読者

BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 25 号

平成 28 年 4 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

03-5394-3079（直通）

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

目次

- 1 頁：巻頭言
- 2 頁：研究ノート
- 3 頁：BSR トピックス 1・2
- 4 頁：さざえ堂だより / 今後の予定

のイメージにまかせて連想の中で舞ながら解釈という花にとまる。そこには近代の美意識や知識が入り込んでくる。そうした鑑賞法もあってよいと思う。それは、作品を自分に引き寄せた解釈となろう。

しかし、先掲の西行の歌でいくと、西行の釈迦に対する思いや思想・信仰の解釈が不十分、あるいは欠落してしまう危険性がある。実に手間ひまはかかるが、当時の作者・読者の解釈に出来るだけ近づいて「願わくは」の一首を理解するためには、その時代に可能な限り近づく作業をしなければならないのである。これは、自分自身が作品に近づくことである。この作業が地味で実に根気のいる作業である。古代人の心に近づくことは容易ではない。

研究ノート

多死社会における BSR

— 科研研究会報告③ —

本研究ノートでは、過去 2 回にわたって科学研究費研究「多死社会における仏教者の社会的責任」（代表者：林田康順先生）研究会の報告をしてきました（BSR 通信 Vol.18、Vol.20 参照）。

今年度は、3 カ年に渡る研究計画の 2 年目にあたります。いよいよ、BSR 独自の視点からの研究調査に踏み込んでいかなければなりません。そのまえに、これまで掲載できなかった 2 回の研究会についてご報告したいと思います。

高齢者福祉の現場から

平成 27 年 12 月 8 日、本学非常勤講師であり東京都東村山市の特別養護老人ホーム「白十字ホーム」のホーム長を勤める西岡修氏を招いて研究会を開催しました。施設責任者でありながら長らく介護の現場にたずさわってこられた西岡氏は、高齢者福祉制度に対する俯瞰的視点を持ちながら、現場職員の抱える思いにも通じています。これまで、在宅ケア（高丸氏）、医療（岡村氏）と 2 つの現場での仏教者の関与の可能性についてうかがいました。しかし、在宅や医療というのはまだ個人の選択に寄与するところが大き

いのも事実です。

一方、福祉施設は「制度」に近い場所であるということができるでしょう。したがって、福祉施設での仏教者（宗教者）の関与の可能性は、今後社会で活動を展開するうえでは重要なポイントになります。

西岡氏によれば、白十字ホームの設立背景はキリスト教ですが、施設では法話の会、お盆や彼岸の法要、花まつりなど仏教的な実践が多数みられると言います。

また、白十字ホームでは年間 36 人もの利用者を看取りました（平成 26 年度）。月に換算すれば毎月 3 回の死別を経験していることになります。

これまで、利用者が亡くなると人目につかないように処置（家族へ引き渡す、荼毘に伏す）するのが普通でした。しかし、利用者の「知っている人がいつの間にかいなくなるのは寂しい」との声で、白十字ホームでは、お別れ会を行うようになりました。このお別れ会は、花を棺の中に入れ、言葉をかけるという非常にシンプルなものですが。

さらに、施設の改築にあたって、そのお別れの場所をフロアで集まる場所に設けたといいます。これにより、家族の希望があれば宗教に則った儀式を行うこともできるようになったといいます。このようにして「死」をオープンなものにし、きちんと「見送る」ことでほかの利用者の心の安寧にもつながっていると西岡氏は言います。

制度から見た仏教者の役割

さて、各現場では仏教者の果たしている役割は十分あるとの声をいただきましたが、「制度」の中で、はたしてそれは実現可能なのでしょうか。

そこで、平成 28 年 1 月 19 日の研究会では、厚生労働省社会・援護局



厚生労働省 本後健室長

地域福祉課生活困窮者自立支援室室長の本後健氏を招き、「制度」側からの仏教者の役割について言及していただきました。

本後氏は、今後、地域全体で高齢者をケアしていくことが求められていくと言います。そのためには、福祉ニーズが多様化・複雑化した高齢者が、制度の狭間に漏れ落ちてしまわないよう公的機関と私的な民間支援団体が緊密・柔軟に協力することが重要です。

これにより、細かなニーズに持続的に対応できる体制を整えることができるでしょう。

では、仏教者は公のパートナーとなり得るのでしょうか？

本後氏は、地域ごとの状況に応じて公的機関と寺院が協働することは政教分離に抵触することではなく、むしろそれらの実践例を積み重ねていくことで、行政側も寺院を一つの重要な社会的資源としてみなすようになるのではと言います。

このことからすれば、寺院・宗教施設は地域包括ケアの担い手に十分なりうるということです。一方で、すでに日本各地で寺院を舞台に行われている「実績」を蓄積・紹介していくことも重要な課題といえそうです。

このことをふまえ、次回以降の研究会では、調査方法の議論を進めてまいりたいと思います。（T）

お別れ会で花を手向ける利用者
（西岡氏発表資料より）

BSR トピックス 1

～ともいき財団公開セミナー～

去る3月29日(火)、「心といのちの電話相談室」5周年記念公開セミナー(主催:浄土宗ともいき財団、協力:ひとさじの会、後援:浄土宗/大正大学)が大正大学を会場に開催されました。ともいき財団は、本学設立宗派の一つ浄土宗関連の公益財団法人です。

当公開セミナーは、「心といのちの電話相談室統計データから見る 今社会が求めるお坊さん お寺の奥さん 仏事相談に隠れた本当の悩みとは」と題し、この取り組みの活動報告と記念講演の2部構成で行われ、約60名が集まり熱心に聴講しました。

まず、電話相談室の事務局より、当事業の歴史、相談に関する統計・分析、そして人の悩みに寄り添うには「受信力」が重要であることを挙げました。そのうえで、「発信力」と併せた両輪がお寺での相談に求められるものであるとまとめ

▽イベントポスター



▽熱く語る名越康文氏



した。

第2部は、精神科医で、テレビのコメンテーターとしても活躍中の名越康文氏の記念講演でした。精神科医としての苦労話から、高僧との出会いによってそれまでより少し肩の力が抜けて患者さんに相対するようになり、仏教に傾向していったこと、そして三句の法門(菩提心を因とし、大悲を根とし、方便を究竟となす)という真言宗・弘法大師の教えの根本ともいえる教えに因んで、お寺が相談にあたる役割・意義についてお話しいただきました。(M)

BSR トピックス 2

～平成27年度 BSR 講座まとめ～

昨年度の BSR 推進室の新たな取り組みが一般の方を対象とした仏教講座、BSR 講座です。大きくは「オープンカレッジ」と「区民ひろば仏教講座」に分けられます。

まずオープンカレッジは、一般の方を対象とした、大正大学の知的財産を活用した生涯学習の機会提供の講座で仏教、芸術、生活、文化の各テーマで本学内外の講師が担当して開講しています。BSR 講座としては、①仏教を体験してみよう ②終活と身近な仏事 の2講座がありました。①は、1)止観 2)写経 3)念仏・礼拝 という身体体験を通じて仏教を感じていただく講座です。②は BSR 推進室の研究員が調査・研究の蓄積を生かし終活、エンディングノート、グリーフケアそしてそれを踏まえた葬儀や身近な仏事について話しました。

次に区民ひろば仏教講座を、区民ひろば豊成、西巣鴨の2か所で行いました。区民ひろばとは、いわゆる公民館のような豊島区立の施設です。大正大学と豊島区の連携の一環で、一昨年度に区民ひろば清和で開催したのを皮切りに実施しています。当初は、公共の施設で宗教の話をするのは難しいのではないかとこちらがしり込みしていましたが、施設の担当者と話しているうち、特定の宗派の布教・教化でなければ問題なしとのことで、かえって一般の方はそういう

話を聴きたがっているとのことでした。平日の昼間ということもあり、高齢の方が多かったですが、豊成は元々児童館だった施設であり普段から小さいお子さんとその母親の利用が多いため、その世代の方に興味を持っていただける内容を企画しました。その狙い通り、お子さん連れの方が5組も来ていただきました。そういった方にも仏教について興味をもっている「脈」のようなものは感じました。

平成28年度も引き続き同様の講座を実施して、社会の大正大学に対する期待である「仏教」について学ぶ機会を提供して大正大学の社会的責任(TSR)を果たし、あわせて仏教者の社会的責任(BSR)の推進に繋げていきたいと思います。(M)

平成27年度 BSR 講座開講実績一覧

区分	講座名(回数)	内容	受講者数
オール	仏教を体験してみよう(3回)	止観(坐禅)、写経、念仏・礼拝	16
オール	終活と身近な仏事(5回)	終活、エンディングノート、葬儀・仏事	19
区民ひろば豊成	仏教に親しむ区民講座(4回)	身近な仏教語、瞑想、写仏、仏教的思考	32
区民ひろば西巣鴨	仏教に親しむ～身近な仏教～(4回)	お釈迦様の生涯と教え、仏事、瞑想、写経	10

さざえ堂だより

～花まつり 開催～

去る 4 月 2 日（土）、豊島区仏教会・全日本仏教婦人連盟主催の「花まつりフェスティバル in 大正大学」が開催されました。このイベントは今回で 29 回を数える伝統あるものです。例年、池袋サンシャインシティの噴水広場で開催されていましたが、改修工事のため本学さざえ堂前にて開催されました。本学仏教学科野口圭也教授（豊島区内南蔵院住職）のお力添えで本学にて開催されることになりました。当日は雅楽や仏教賛歌（大正大学音楽部混声合唱団）の奉演、法楽、灌仏が行われ、12 名のお稚児さんを



はじめ、およそ 70 名が参加しました。

また 4 月 8 日（金）には、地域連携推進部（BSR 推進室）でさざえ堂の前に花御堂を用意して、参拝の皆さまにお釈迦様のお誕生をお祝いいただきました。

しかしながら、花まつりは一般の方に認知されているとは言い難いと思います。一方、イエス・キリストの誕生日であるクリスマスや古代クルド人の祭りを起源とするハロウィンはすっかり日本で年中行事として定着した感があります。また今年あたりはイースター（キリスト教の復活祭）が話題となりつつあります。これらには企業のソロバンをはじく様子が見え隠れしていますが、特に欧米のものをお洒落で楽しいイベントとしてとらえているようです。

日本は、古くから外国から来たものを上手に取り込んで自分たちの文化にすることが得意です。元は仏教も外来の宗教ですが、日本古来の考え方・習俗と結びついて日本文化の根底となっています。花まつりが、一般の方にとって、もっと楽しく、より親しみを持ってもらえる行事になるよう努力して行かなくてはならないと感じました。（M）

今後の予定

4 月 16 日（土）	11 時～12 時	花会式（天台宗）	鴨台観音堂前
	9 時～13 時	あさ市	南門 けやき広場
	13 時～15 時	お坊さんカフェ「僧話花」	5 号館 1 階
5 月 21 日（土）	11 時～12 時	鴨台花まつり（5 宗派合同）	鴨台観音堂前
	9 時～13 時	あさ市	南門 けやき広場
	13 時～15 時	お坊さんカフェ「僧話花」	5 号館 1 階



巻頭言執筆者 紹介

大場 朗（おおば あきら）

大正大学 文学部 日本文学科 学科長・教授

國學院大学 文学部 卒業

大正大学大学院 文学研究科博士課程 単位取得満期退学
専門は、日本古典文学 源氏物語、宝物集、西行の作品など
中古・中世文学と仏教思想の関連。

平成 13 年 3 月 博士（文学）学位取得

前 文学部長

巻頭写真

ライトアップされた大正大学正門と桜花